

## 国際化学肥料ニュース（2026年5月）

### 肥料業界の2026年5月動態

- \* インド IPL 社の尿素国際入札の最終結果を受け、4月最終週（4月27日～5月3日）の尿素国際相場が FOB700～800 ドル台に下がった。これは価格高騰による需要の減少、季節要因および5月出荷分の状況が複合的に作用した結果である。

5月上旬最新の市場情報によれば、エジプトの大粒尿素的の FOB 価格が 800 ドル／トン台の半ばで、バルト海の FOB 価格が 700 ドル台まで下落しており、以前の 860 ドル／トンから 700 ドル／トン台に下落しており、CFR ブラジル価格が 770 ドル／トン台まで下落した。アメリカも FOB Nola 700 ドル／トン台の前半から半ばの価格でアフリカと中央アメリカ向けの販売が成立した。

- \* 5月5日、クウェートの国営硫黄生産会社 KPC 社は、5月クウェート硫黄の FOB 価格を 765 ドル／トンに設定することを発表した。これは4月の FOB 価格から 195 ドルの値上げとなり、史上最高の価格水準である。

同日、アブダビの国営石油会社 Adnoc 社は、5月南アジア向けの硫黄 FOB 価格を 760 ドル／トンに設定した。これは4月の FOB 価格から 160 ドルの値上げとなる。これも 2008年6月～8月以来の最高水準である。

- \* 中国からの情報によれば、5月または6月以降、中国硫安の輸出に「法定検査」が必要となる可能性が高くなる。一部の中国メーカーと商社は輸出が厳しく規制されている尿素的を硫安に偽って輸出されたことが発覚され、関係当局と税関は過去1年間に輸出された硫安の案件を再点検することとなる。そのルートを防ぐために、硫安も輸出の「法定検査」リストに加わることが検討されている。ただし、中国国内の硫安需要量が少なく、過剰の硫安をさばくために輸出が必要であるので、輸出数量割当制度の導入可能性が低い。

- \* 5月6日、インドの IPL 社は6つのインド企業が結成するコンソーシアムを代表して、インドの西海岸向けに 15.1 万トン、東海岸向けに 37 万トンの計 52.1 万トンアンモニアの国際入札を発表した。5月18日締切りと開札、5月25日に購買数量を決定し、6～8月に納入する運びである。この入札は、インドの主要肥料生産者が肥料原料を確保するために国内供給とコスト圧力の管理を踏まえ、採用したコンソーシアム戦略を反映している。

- \* パナマ船籍の **Richsing Lotus** は、5月1～6日にイランの封鎖線を突破してホルムズ海峡を渡った最新の硫黄運送船である。この船は3月27日に UAE の **Ruwais** 港で約5万トン硫黄の積み込みを行い、モロッコの **Jorf Lasfa** に輸送するはずだが、ずっとホルムズ海峡の安全な通過を待っている。5月上旬現在、ペルシャ湾に多くの硫黄輸送船が待機しており、推定では約100万トンの硫黄が積み込まれて出航準備が整っている。
  
- \* インドの **IPL** 社はコンソーシアムを代表して行った **DAP** と **TSP**（重過リン酸石灰）の国際入札は、5月7日に締め切った結果、計18社、232万500トン **DAP** と41万トン **TSP** の応札があることを発表した。最低応札価格は **DAP** の **CFR 東海岸 935** ドル/トン、**CFR 西海岸 930** ドル/トン、**TSP** の **CFR 東海岸 775** ドル/トン、**CFR 西海岸 770** ドル/トンである。  
5月8日、**IPL** 社は今回入札の **DAP** 最低応札価格である **CFR 東海岸 935** ドル/トン、**CFR 西海岸 930** ドル/トンをすべての **DAP** 応札者に対応を求めている。ただし、**TSP** の応札者に最低応札価格への対応を要求していない。
  
- \* 最新の統計データによれば、4月末のインド **DAP** 在庫量が193万トンと推定され、過去5年間の平均246万トンより大きく下回っている。1～4月のインド国内 **DAP** 販売量173万トン、過去5年間同時期の平均値154万トンより大きく増えた。これに対応して、1～4月の国内 **DAP** 生産量118万トン、過去5年間同時期の平均値112万トンより若干増えたことに留まる。また、1～4月の **DAP** 輸入量が38万トン、過去5年間同時期の平均値112万トンより大きく下回っている。2026年1～4月の **DAP** 輸入量が急減した理由は昨年12月から中国のりん安輸出規制と2月末以降のホルムズ海峡閉鎖によって高騰した国際価格がインド輸入業者の購入を思いとどまらせたためである。
  
- \* インドの **IPL** 社は、5月7日に締切された **DAP** と **TSP** の国際入札に於いて、**CFR 東海岸 935** ドル/トンで58.15万トン、**CFR 西海岸 930** ドル/トンで76.5万トンの計134.65万トンの **DAP** を購入することが確定した。**DAP** の供給元はサウジアラビア40万トン、ロシア25万トン、アメリカ12万トン、エジプト6.15万トン、モロッコ5万トン、ヨルダン4.5万トンなどである。  
**IPL** 社は同じ国際入札で40万トンの **TSP** も求めている。モロッコの **OCP** 社に対し、**CFR710** ドル/トンの供給を要求したが、うまく行かず、価格交渉が継続しているという。
  
- \* インドネシア国営 **Pupuk** 社の子会社 **PIM** 社は5月11日に締切りと開札された3万トン大粒尿素の国際販売入札に最高応札価格が **FOB640～650** ドル/トンを受け、予想

された 850 ドル/トンより大きく下回ったため、入札をキャンセルすることを発表した。

インド IPL 社の 4 月 15 日に開札された尿素国際入札以降、高値により欧州と南米バイヤーの購買意欲が削られ、中東、黒海など主な尿素産地の FOB 価格の下落が続いている。

- \* 5 月 13 日、オーストラリア農林水産大臣は国内尿素供給不足を配慮して、9 万トン輸入尿素を確保したことを発表した。政府は肥料商社の Incitec Pivot および CSBP と協力し、Export Finance Australia(EFA)を通じて 3 か所から 9 万トンの尿素を輸入する。これに加えて、すでにインドネシア Pupuk 社との間に 5~12 月に計 25 万トン尿素的の輸入を契約したので、冬季栽培シーズンに必要な尿素を基本的に確保しているという。
  
- \* インドネシアは 2026 年オーストラリアへの尿素輸出量を 50 万トンに増加することを決定した。4 月 21 日、インドネシアの Prabowo Subianto 大統領がオーストラリアの Anthony Albanese 総理大臣との電話会談に於いて 2026 年 5~12 月に 25 万トン尿素的の輸出を約束したが、尿素的の国際貿易の混乱で、その輸出量を 50 万トンに拡張する。インドネシア国営 Pupuk 社は 2026 年の尿素的生産量が 780 万トンと計画して、国内需要量が 630 万トン、余剰の 150 万トンが輸出可能である。
  
- \* 5 月 14 日、インドネシアの農業大臣は政府間協定 (G2G) に基づき、オーストラリアへ輸出される最初の 47,250 トン尿素的が東カリマンタン州の Bontang 港から出港されたことを発表した。インドネシア政府は、2026 年にオーストラリアへの輸出尿素的の数量を 25 万トンから 50 万トンに増やす計画であり、これにより取引総額は 7 兆ルピア (3 億 9800 万ドル) に達する見込みである。  
また、インドネシアの農業大臣はインド大使から 50 万トン尿素的の供給要請の直接連絡を受けたこと、フィリピン、ブラジル、バングラデシュなど多くの国がインドネシア尿素的の輸出に関心を示していることをも述べた。
  
- \* 中国税関の速報によれば、2026 年 4 月中国化学肥料輸出量が 27.6%増の 324 万トン。その内訳は尿素的が 552.2%増の 1.5 万トン、硫安が 39.8%増の 179 万トン、MAP が 98.8%減の 50 トン、DAP 輸出量がゼロである。硫安を除き、尿素的、DAP、MAP の輸出が厳しく規制されていることが明らかである。  
一方、2026 年 4 月の中国化学肥料輸入量が 13%増の 139 万トン。その内訳は塩化加里輸入量が 10.8%増の 123 万トン、NPK 化成肥料輸入量が 10%減の 9 万トン。

- \* 中国からのうわさによれば、中国税関はすでに尿素、塩安の輸出を申請したが、3月25日からの化学肥料輸出一時禁止を食らった輸出申請者に対して、90日後の8月末から順次輸出を許可されることを連絡したようである。
- \* 5月18日、ベラルーシのBPC社はインドIPL社との間に2026年塩化加里輸入基本契約を締結したことを発表した。2026年6～12月に65万トン进行供給する予定で、CFRインドの価格383ドル/トン、前年の349ドル/トンより34ドル引き上げた。
- \* インドネシアの国際貿易データによれば、2025年インドネシアの塩化加里輸入量が前年より31%増の449万トンに達し、最多輸入量の新記録となった。カナダからの輸入量180万トン、ロシアからの輸入量167万トン、ベラルーシからの輸入量40万トンである。
- \* エジプトのNCIC社は2万トンDAP、2.5万トン過リン酸石灰、1.5万トン大粒尿素、5000トン硝酸石灰(CAN26)、600トン硫酸加里の販売入札を行う。5月21日締切りと開札。  
 前回の販売入札では、DAPをFOB915～917ドル/トン、過リン酸石灰をFOB340～375ドル/トン、大粒尿素をFOB865ドル/トン、CAN26をFOB412ドル/トン、硫酸加里をFOB721ドル/トンで販売した。
- \* サウジアラビアのSabic社はホルムズ海峡を回避するために、20トン積みトラック約1250台分の計2.5万トン尿素をJubail工場から1500km離れた紅海側のYanbu港に運び、船に積み込みを完了したことを発表した。今回の尿素はバングラデシュとの長期政府間契約のものとして、Sabic社が初めてペルシャ湾側から紅海側に運んだものである。Sabic社は2月28日以降もJubail工場に尿素生産を続けている。  
 サウジアラビアのMaaden社はすでに3月下旬からトラックを使って、DAPなどのりん酸肥料をペルシャ湾側のRal Al-Khair工業都市から紅海側のYanbu港に運び、輸出することになる。約2000台のトラックを使って、昼夜問わずに陸送しているという。
- \* Trading Economicsの最新データによれば、5月15日現在の尿素国際価格(FOB価格)は約577ドル/トンで、3月のピーク値(約714ドル/トン)から約19%下落したが、まだ2024年5月より21%高くなっている。尿素相場下落はいくつかの要因によるものである。主に需要面では農家が高価の尿素に対して、使用量を減らす動きが出ているため、バイヤーは高値での輸入をためらっている。供給面ではCIS諸国(独立国家

共同体) や湾岸諸国以外の中東諸国からの尿素輸出量が増えて、代替供給が一部確保され、供給状況がわずかに改善している。

ただし、尿素価格は若干下落したものの、前年同期比では約 21%上昇しており、農家の生産コストに依然として大きな圧力をかけている。

\* 5月26日、中国政府は2026年1回目の尿素輸出割当数量を決定し、大手メーカーと貿易商社に通達した。総数量約300万トン、輸出の有効期間は6~10月、6月輸出量が割当数量の50%未満に規制する。さらに中国国家発展改革委員会は今回の尿素輸出に対して、最低輸出FOB価格を設定し、小粒尿素が660ドル/トン、大粒尿素が670ドル/トン、アドブルー用尿素が670ドル/トン以上にしなければならない。また、インド向けの輸出がさらに20ドル/トンを上乗せるという。

\* インド肥料協会 (FAI) の統計データによれば、4月末のインドDAP在庫量が約193万トン、昨年4月末の在庫量約160万トンより増えたが、2022~24年同期の平均在庫量より100万トン以上少ない状況である。ほかに重過リン酸石灰の在庫量が37.4万トンである。

FAIのデータによれば、インドは4月の国内DAP生産量30.3万トン、前年同月より1万トン減少したが、1~4月の生産量は117.5万トンで、前年同期の93.3万トンを上回っている。しかし、中東情勢によりDAP生産の重要な原材料である硫黄やアンモニアが不足して、この増産傾向を維持できるかは疑問である。

DAP輸入量は前年比で大きく減少している。4月のDAP輸入量がわずか4.9万トン、1~4月のDAP輸入量が29.8万トントンで、前年同期のDAP輸入量の39%しかない。ただし、国営IPL社はコンソーシアムを代表して、5月7日の入札で130万トン以上のDAPを確保した。

一方、4月のインド国内DAP販売量は32.6万トンで、1~4月のDAP販売量が昨年同期より49%増の173万である。

\* 5月27日、インドのNFLは新たに尿素的国際入札を行うことを発表した。予定購買数量は西海岸向け90万トン、東海岸向け80万トンの170万トン、6月8日締切りと開札、7月20日までに出荷する。これは2月28日に中東危機発生以来、インド側の2回目の尿素的国際入札である。

前回4月15日に開札されたインドIPL社の尿素的国際入札では、CFR935~959ドル/トンで250万トンを契約した。その内訳は旧ソ連諸国から120万トン、北アフリカから70万トン、残りはナイジェリア、オマーン、東南アジアからのものである。

今回の発表は、尿素スポット市場の流動性低下と価格下落圧力が5週連続した後、5月26日中国が尿素輸出割当数量を設定し、尿素の国際貿易に復帰する発表の直後に行われたものである。

- \* ホルムズ海峡の封鎖により、大きく値上げされたアンモニアの国際価格が下落に転じた。5月29日にYara社とMosaic社の6月積みアメリカ向けのアンモニア契約が5月より50ドル下げて、CFR775ドル/トンで合意したことは、スエズ運河以西における供給状況が次第に良好になっていることを裏付けている。ただし、イラン紛争の影響で、東半球では需給バランスの逼迫状況が続いている。

南北アメリカのアンモニア工場は、テキサス州の新設工場を含め、順調に稼働しており、北アフリカのアルジェリアと旧ソ連バルト海沿岸地域ではほぼ通常通りアンモニアを輸出している。硫黄価格の高騰を受けて、モロッコ、ブラジル、トルコ、アメリカなどの主要リン安メーカーは生産量を削減しており、アンモニア需要量も減少している。これもアンモニア国際相場にマイナスの影響を与えている。

- \* 5月29日、インドのIPL社は硫黄の国際入札をキャンセルすることを発表した。5月10日、IPL社はインド8社を代表して、6月から8月にかけて東海岸向けに527,500トンと西海岸向けに66,000トンの計593,500トン硫黄国際入札を行った。5月27日に開札した結果、東海岸向けに6月から7月の出荷分がCFR1,170~1,295ドル/トン、8月の出荷分がCFR1,065ドル~1,098ドル/トン、西海岸向けに6,000トンしかないが、CFR1,400ドル/トンの応札を受けた。応札価格が市場価格を大きく上回ったため、IPLは応札者との価格交渉の結果、入札自体をキャンセルにした。

- \* インド新聞「Business Standard」の記事によれば、インド政府の最新データでは2025~26財政年度（2025年4月~26年3月）にロシアからの化学肥料輸入量が35%増の671万トン、首位を守った。中国からの輸入量が173%増の502万トン、第2位に躍進した。次に、サウジアラビアからの輸入量が23%増の343万トン、モロッコからの輸入量が99%増の279万トン、オマーンからの輸入量が35%減の191万トン。

また、5月24日、あるインド政府の高官は中東紛争が続いている場合、2026~27財政年度に政府からの肥料補助金が3兆ルピー（約316億ドル）を超え、史上最大額になる可能性があるとして述べた。

## 大手各社の営業業績

- \* 中国の大手化学肥料メーカーは今年の好景気に引っ張られ、好調が続いている。5月に公開された中国の上場している化学肥料メーカー33社の第1四半期の業績では、売上

高が増えたのは 24 社、純利益が増加したのは 22 社である。赤字企業は 7 社までに減った。加里肥料メーカーとりん酸肥料メーカーの好調が目立つが、窒素肥料メーカーと化成肥料メーカーがやや遅れた感じである。

- \* アメリカの窒素肥料メーカー **Industries** 社は 2026 年第 1 四半期の業績を公表した。第 1 四半期のアンモニア生産量が 6.1%減の 245.7 万トン、販売量 110.3 万トン、尿素生産量が 3.7%増の 115.1 万トン、販売量 129.1 万トン、UAN 生産量が 17.8%減の 152.5 万トン、販売量 167.1 万トン。窒素肥料の価格高騰を受け、売上高が 19.4%増の 19.86 億ドル、調整後 EBITDA が 52.6%増の 9.83 億ドル、純利益が 97.1%増の 6.15 億ドルである。
- \* カナダの **Nutrien** 社は 2026 年第 1 四半期の業績を発表した。アンモニア生産量が 27.3%減の 112.2 万トン、りん酸肥料生産量 (P2O5 換算) が 19.5%増の 33.7 万トン、加里肥料生産量が 11.3%増の 366 万トン。肥料の価格高騰を受け、売上高が 18.5%増の 60 億 4600 万ドル、調整後 EBITDA が 29.7%増の 11 億 1000 万ドル、純利益が 631.6%増の 1 億 3900 万ドル。

#### 肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- \* 4 月 30 日、中国の肥料メーカー中塩紅四方社は、新疆の库尔勒市 (Korla) に肥料工場を建設する計画を発表した。この肥料工場は年間生産能力 60 万トンアンモニア、100 万トン尿素と 140 万トン水溶性複合肥料として設計され、総投資額 74.75 億人民元 (約 10.9 億ドル)、2026 年 10 月着工、2028 年末に完成する予定である。
- \* インドの国営肥料メーカー 3 社 (IPL 社、RCF 社と NFL 社) はロシアの **Uralchem** 社との合弁でロシアの Samara 州 Tolyatti 市に年間生産能力 200 万トンの尿素工場を建設することを合意した。総投資額約 20 億ドル、インドとロシアが折半で、インド側は尿素プラントを建設し、**Uralchem** 社がアンモニアプラントを建設し、2 年以内に完成・稼働する計画である。生産される尿素は全量インドに輸出される。
- \* ヨルダンは初のグリーンアンモニアプロジェクトを計画している。当該グリーンアンモニア生産施設はヨルダンのアカバ港に建設し、専用の 550MW 太陽パネルで電力を供給し、電気分解で生成するグリーン水素を原料にして年間 10 万トンのグリーンアンモニアを生産する。投資額約 10 億ドル、2027 年 9 月までに建設資金を確保し、2030 年 11 月に完成・稼働する予定である。生産されるグリーンアンモニアは欧州やアジアの需要性の高い市場向けに輸出する。

- \* ナイジェリアの Dangote グループを率いる Aliko Dangote 氏は、エチオピアの Abiy Ahmed 首相と一緒にエチオピアの Somali 州 Gode に建設中の窒素肥料プロジェクトを訪問する際に、プロジェクトへの投資額を増額し、当初の 25 億ドルから 40 億ドル以上に拡大すると発表した。追加の投資はプロジェクトのインフラを整備するものとなる。  
Gode 窒素肥料プロジェクトは、Dangote グループとエチオピアの Ethiopian Investment Holdings 社との合弁事業で、Ogaden にある Calub ガス田からの天然ガスを原料にして年間 300 万トン尿素の生産能力を有し、世界最大級の単一尿素生産施設である。生産能力 150 万トンの第 1 フェーズは 2028 年末に完成・稼働する計画である。
- \* フィリピン政府農業省は Antique 州 Semirara 島に石炭を原料とする尿素工場の建設を検討していると発表した。Semirara 島はフィリピン最大の石炭産地で、当該尿素工場が完成すれば、フィリピン最初の尿素工場となる。フィリピン農業省はすでにアジア開発銀行（ADB）から 100 万ドルの資金を獲得して、8～9 月までに技術と経済の実現可能性調査を行っている。条件が満たされれば、2026 年末に着工する計画である。
- \* ブラジル国営石油会社 Petrobras 社の CEO は 2026 年初に Mato Grosso do Sul 州 Tres Lagoas 市にある UFN-III 尿素工場が 2028 年末に完成し、2029 年から生産開始することを発表した。UFN-III 窒素肥料工場は年間生産能力 77 万トンと 120 万トン尿素として設計されたブラジル最大の窒素肥料工場だが、2014 年に 80% が完成した際に建設を中止した。2026 年初頭から建設が再開し、約 10 億ドルを投資して完成させる。
- \* ロシアの EuroChem 社は、カザフスタンの Zhambyl 州に硫酸プラントを完成し、稼働が始まったと発表した。このプラントは、年間硫酸生産能力 80 万トンが設計され、カザフスタン最大級の規模を誇る。生産された硫酸は、EuroChem 社が建設中の年間生産能力 84 万トンのりん酸肥料および工業製品の採掘・加工複合施設に使用されるほか、カザフスタンの国内市場にも供給される。なお、りん酸肥料および工業製品の採掘・加工複合施設は 2027 年に稼働開始予定で、総投資額は 10 億ドルを超え、全体が完了後の総生産量は年間 100 万トン以上となる見込みである。
- \* アフリカザンビアの初の尿素工場が完成し、5 月 25 日から正式に稼働が始まった。この尿素工場がザンビアの Lusaka 州 Chilanga 区にあり、石炭を原料にして、年間生産能力 18 万トンアンモニアと 30 万トン尿素、総投資額約 6 億ドル。2021 年 11 月着工、2025 年 10 月完成、試運転に入った。

その他

- \* 5月4日、カナダの **Avenir Minerals** 社は同じカナダの **Fox River Resources** 社の全株式を 9,430 万カナダドルで買収することを発表した。**Fox River Resources** 社はオンタリオ州 **Hearst** 市にある高品位の大規模火成リン鉱床を開発し、リン酸肥料の国内供給と **LFP** バッテリー産業向けの **PPA** を安定的に供給する目的の **Martison** リン酸塩プロジェクトの開発を計画している。買収は 2026 年第 2 四半期の早い時期に完了する見込みである。
  
- \* 5月22日、EU 理事会は中東紛争が EU 農業に与える悪影響を緩和するために、尿素やアンモニアなど主要窒素肥料の輸入関税を 1 年間停止することを発表した。関税の一時徴収停止は EU の農業および肥料産業の生産コスト削減を目的としており、税額で約 6,000 万ユーロの削減が見込まれていると述べられている。しかし、この関税免除はロシアおよびベラルーシから輸入される肥料製品には適用されない。

現在、EU は優遇措置を享受している国からの肥料輸入に関税を免除しているが、その他の国や地域から輸入する肥料には 5.5~6.5% の輸入関税を課している。EU は 2024 年にアンモニア 200 万トンと尿素 590 万トンを輸入した。
  
- \* 5月29日、欧州肥料協会 (**Fertilizers Europe**) は声明を発表し、EU 理事会の尿素やアンモニアを含む主要な窒素系肥料に対する関税を 1 年間停止するという決定に異議を示した。声明では、「EU が戦略的自律性の向上、強靱なサプライチェーン、そして国内産業能力の強化を求めている今、この決定は誤ったメッセージを送ることになる。EU が食料安全保障、農家の回復力、そして欧州の長期的な競争力にとって不可欠であると最近認識した、まさに欧州の肥料生産基盤を弱体化させる危険性がある。」と指摘する。

また、「欧州の肥料業界は、国内農家への供給体制を整えている。質の高い肥料を手頃な価格で入手できることは、農業生産と食料安全保障にとって不可欠である。しかし、EU による農家支援は、国内産業を犠牲にして行われるべきではない。EU の農家と肥料生産者は、同じバリューチェーンの一部を形成している。そのチェーンの一部を損なうような措置は、最終的に欧州全体の農業食品システムの回復力を弱めることになる。」

「欧州肥料協会は、EU 委員会に対し、この措置が EU の生産に与える影響を綿密に監視し、措置が一時的なものにとどまるよう確保するとともに、欧州の肥料製造基盤をさらに弱体化させるような延長措置を避けるよう求める。」という内容である。
  
- \* 5月29日、ルーマニアの国営ガス会社 **Romgaz** 社は、国内肥料メーカー **Azmoures** 社を 6,900 万ユーロで買収を完了したと発表した。**Azmoures** 社はスイスの貿易商社

Ameropa の子会社で、年間最大 160 万トン NPK 化成肥料と窒素肥料の生産能力を有する。稼働時に年間約 10 億立方メートル天然ガスを消費して、ルーマニア最大のガス消費者の一つである。

しかし、天然ガスの価格高騰により、2024 年 8 月以降は小規模な生産を除き、肥料の生産は行われていない。Romgaz 社は 2025 年 2 月に Azomures 社の買収に関心を示し、政府は長期にわたる交渉を促進するために介入して、買収に漕ぎ着けた。